

研究課題名	胎児発育不全児の血流異常が新生児の血圧に与える影響
研究の意義・目的	<p>妊娠 37 週以前に分娩に至った早産児は、37 週以降に分娩に至った正期産児と比較し出生の血圧が低いことが知られている。しかし、胎児発育不全児における血圧を比較検討した報告は少ない。胎児発育不全児において、重症であればあるほど早期の分娩に至ることも多く、出生時の低血圧が週数による影響のものなのか、出生体重によるものかは明らかになっていない。胎児発育不全児における低血圧に起因する因子を明らかにすることで、周産期予後の改善の一助となりうる。</p> <p>また、胎児には特有のシャントシステムが存在し、酸素濃度の高い血液を効率的に分配しているが、胎児発育不全児については、脳血管である中大脳動脈の拡張が起こるなど血流の再分配が行われ、重要臓器に優先的に酸素を送るシステムが構築されている。この血流の再分配を基本とした胎児循環の変化が、出生児の循環に関わる影響を検討することで、胎内環境から出生後の状態を推測でき、迅速な対応が可能となり、周産期予後の改善が期待される。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~ 2026 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2011 年 1 月~2021 年 12 月の間に当院にて分娩に至った胎児発育不全児患者が対象です。また、対象群としては 2020 年 1 月~2021 年 12 月の間に当院で分娩に至った在胎週数相当児で早産に至った患者が対象になります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせて いただく試料・情報 等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。</p> <p>診療情報：病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、周産期事象(妊娠回数、妊娠方法、周産期合併症)、周産期情報(分娩方法、分娩週数、妊娠出産歴)、超音波検査データ、新生児情報(出生体重、Apgar score、臍帯動脈血ガス(pH、BE)、出生時血圧)</p>
試料・情報を利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	<p>この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科女性生涯医学のみで行います。</p> <p>【研究責任者】大阪公立大学 大学院医学研究科女性生涯医学 講師 栗原康</p>
本研究の 利益相反	<p>利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。</p> <p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	<p>大阪公立大学医学部附属病院 女性診療科</p> <p>担当者氏名：栗原康</p> <p>電話番号：06-6645-3862</p>